

## 2011 年度 小委員会活動成果報告

(2012 年 2 月 10 日作成)

小委員会名	木造建築構法小委員会		主 査 名：堀江 亨 就任年月：2008 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会 (構法計画運営委員会)		委員長名：松村秀一 主 査 名：南 一誠
設 置 期 間	2008 年 4 月 ～ 2012 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	設置目的 ・ 木造建築における新技術や構法開発の情報収集 ・ 在来および伝統木造建築の構法史的研究 ・ 木構造の研究者との連携・共同研究あるいは研究の情報交換 ・ 在来、伝統木造建築構法の性能の再評価と向上のための技術 ・ アジアを中心とする海外の木造建築構法に関する情報収集 2010 年度の活動計画 ・ 設置目的の各項目に関する研究会および見学会		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有		
	主査：堀江亨 (日本大学)、幹事：杉本健一 ((独) 森林総合研究所)、小林久高 ((独) 森林総合研究所)、委員：河合直人 (工学院大学)、木村勉 (長岡造形大学)、後藤治 (工学院大学)、左海冬彦 ((財) 建築行政情報センター)、樋口貴彦 (東洋大学)、福濱嘉宏 (福濱嘉宏建築事務所)、藤田香織 (東京大学)、松留慎一郎 (職業能力開発総合大学校)、源愛日児 (武蔵野美術大学)、村上淳史 (村上木構造デザイン室)、山畑信博 (東北芸術工科大学)、吉田倬郎 (工学院大学)		
設置 WG (WG 名：目的)	伝統木造用語WG (日本の伝統木造の語彙に関する文献収集とその位置づけ、民家を例に日本建築の英訳およびイギリスの建築の和訳のための基礎準備を進める)		
2011 年度予算	190,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料 等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セ ミナー・研究会・見 学会等)	1. 研究会 1 「岐阜県飛騨市種蔵集落における伝統木造構法」7 月 6 日 参加者数 10 名 (資料名) 「岐阜県飛騨市種蔵集落における 3 層民家の変容過程とその要因」(青柳) 2. 研究会 2 「地域材による学校づくりの課題」12 月 20 日 参加者数 5 名 (資料名) 「木がつなぐ共生社会の創造」(東洋大学 木と建築で創造する共生社会研究センター)
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	

<p>目標の達成度 (当初の活動計画と 得られた成果との関 係)</p>	<p>1. 研究会を通じ、伝統木造建築の地域構法に関する知見が得られ、また地域材による学校づくりに関する議論を通じ、新技術や構法開発の情報を共有できた。 2. 伝統木造用語WGでは日本国内の民家の構造部材名称の多様性を系統化するとともに、標準名称を仮提案し、文化財修理技術専門家へのヒアリングを通じ、その妥当性を検討した。また英国と日本の断面系統を比較し、同種系統を対照することで、日英の部材名称の対応を求めた。当初目的は対訳版作成であったが概念規定の困難さがわかった。</p>
<p>委員会活動の問題点 ・課題</p>	<p>1. 設置目的が多岐に渡り十分に目的を達せられなかった。今後論点の見直しが必要。 2. WGの成果に関しては、有識者へのさらなるヒアリングや発表会を通じ、その妥当性や精度を検証し、資料の公表へ向け準備が必要である。</p>